５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.562-563
小金井市の森林体験が続いています

【定例活動報告】知足の森

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

６月の定例活動は２回プラス１回で小金井市の企画である「ウッド×デジタルファブリケーション」講座の体験となった。前月に１回活動を行なったが、ほぼ「体験」してもらう、という回となっていたので、本格的に今月の３回で間伐をしてもらい、かつ、その材を搬出する、というのが彼らのミッション。２回とも１５名近くの小金井在学、在住の中学生が集まり、３チームに分かれて作業を行なった。前回は連れてこられてきただけ、という中学生も今回は自分たちで切る、自分たちで材を出す、という気持ちが高まっているようで、当初の参加希望より、やはりいけるようになったので行きます、という連絡をしてくれる人もおり、モチベーションは上がっているようである。確かに地球環境のため、SDGs達成のため、というのは頭ではわかっていると思うが、実体験に基づきこんなことができるよ

うになった、次はこうしてみたい、という知的好奇心やちょっとした冒険心というのは子どもたちを突き動かす力になるのだと実感した。２回とも無事にチーム２本ずつ程度倒し、真っ直ぐな板になりそうな部分を選び、軽トラックが入ることができるところまで無事に運び出せた。３回目では長福寺の森ではなく、高速道路反対側の永井さんの森を使わせてもらい、さらに径の大きい木に挑戦する予定である。

　また第３日曜日はいつものメンバーが集まり、センダンを植えてみたい、ということで苗を用意し、園芸の専門家である安藤さんにご指導いただき、植樹をした。参加した中学生の報告も掲載します。　宮村　連理（本会、副理事長）

　今日は「センダン」と言われる木を植えました。トラックで運ばれてきたセンダンは意外と小さく、葉は黄色っぽかったです。午前中は前回竹を切った場所の下草を切ったり、水の溜まっている竹を切ったりして、センダンを植えやすい環境に整えていきました。それから造園のプロの方にセンダンを植える手順を教えてもらいました。まず、半径30㌢くらいの穴を掘ってその中に栄養剤をカップの3分の1くらい入れ、水をたっぷり入れてセンダンの根っこを土の中に埋めて完成です。初めて来たときと比べると光が沢山入り、だいぶスッキリしたように感じました。午後はさらにスッキリ、光を入れるために竹を切っていきました。竹は固く、ノコギリが途中で引っかかって動きにくくなったりしましたが先輩方や友達の力を借りて、無事、竹を切ることができました。竹を切ったあと、森を見てみると、前よりも光が入り、センダンの葉がいきいきとしている気がしました。これからセンダンがどのような成長を遂げるのか、楽しみです。大切に育てて行きたいと思います。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学１年生女子

　私は、今日センダンを植えた。センダンはなんちゃってけやきと呼ばれるもので早く成長する木だ。３回羽状複葉で広葉樹のセンダンはポットに入っていた。思っていた以上にひょろっとしていた。いざ植える場所に行くと周りの植物が大きくてセンダンが小さく見えた。10年後にはこの木がこの場所で一番大きい木になってほしいと願う。そう思いながら作業を始めた。まずは周りの整備だ。木を植えるプロの安藤さんに教えてもらいながら草をむしっていった。次に木を植えるところを借りで決めていった。穴をほり木を置く。簡単な作業だがかなり重要だそう。枯れ葉は必ずとっておかないといけない。木が窒息してしまうそうだ。これが終わったらいよいよ木の根をうめる。水をまいてから土を少しずつかぶせていく。こうすることで風にも耐えることができるそうだ。1時間強かけてやっとセンダンを植えることができた。私達が大人になる頃には立派な木になって私達を驚かしてほしい。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学１年生女子

桜井尚武の森のコラム

「シラカシ (*Quercus myrsinaefolia*)」

図1 シラカシ

20070526平塚踊場

図2 シラカシの果実

20191010東高根森林公園川崎

図3 ヒノキ造林地に自然発生しているシラカシ

20211204三室山青梅

図4 離れてみるシラカシの大径木

20191104東高根森林公園川崎

ブナ科コナラ属の常緑高木で樹高20m、直径80cm以上になります。葉の先の方に小さな鋸歯があります。東北地方南部から四国、九州までと朝鮮、中国に分布します。葉は互生し長卵形で先端は細くとがります。開き始めの若い葉は紫褐色をしていることが多く目立ちます（図1）。この紫褐色の葉を揉むと1～3mm位の裂片に細かく裂けます。子どもの頃これを顔にこすりつけて遊びました。

果実はドングリです。このドングリを支えているお椀状の組織を殻斗（かくと）と言います（図2）。殻斗は総苞ともいいますが、この総苞片が合着して同心円状に並ぶのがコナラ属のうちのアカガシ亜属の特徴で、コナラ亜属の総苞片は合着せず瓦を重ねたように並びます。果実は受精した翌年に成熟します。

関東地方では民家の周囲に多く、防風林や防風用垣根、街路樹、庭園樹などに広く使われています。雑木林や針葉樹造林地の下ばえにもよく見られますが（図3）、人手の余り入らない自然林にはめったに見られません。

材は淡い紅褐色ですがアカガシに比べて白っぽいのでこの名があるとされます。材の見かけの比重は0.81程度で1を超えるものもみられるといい、重い部類に入ります。硬く丈夫なので農具や大工道具の柄や胴他木刀等にも使われます。

樹皮は黒みを帯び比較的細かな凹凸が密に覆って割目やササクレのない状態を呈していて離れて見れば滑らかに感じます（図4）。

桜井　尚武（本会、会員）

【森をつなぐ、活動から】

積水ハウスマッチングプログラム贈呈式＆体験会を実施

今年も積水ハウスさまよりご支援いただくことになりました。例年、神奈川中央支店さんで贈呈式をしていただいておりますが今年度はぜひ森で、ということで同支店の社員さんに森に来ていただき、贈呈式をしていただき、その後実際に長福寺の森で間伐体験をしてもらいました。最初は戸惑っていた様子もありましたが、作業が進むと森独特の魅力に魅了されていった様子で、次から次へと作業が進み、無事に間伐、玉切りもしていただき、ちょっとした輪切りのお土産もお持ち帰りいただきました。今回は本格的に参加する下見も兼ねておられるということで、次回以降、社員

さんやご家族での体験、参加をお待ちしております。

CAJ総会にて事例報告させていただきました

引き続き、こちらもご支援いただいているコンサベーションアライアンスジャパンさんの総会で、支援団体の一つとして事例報告させていただきました。日々の活動の様子、科学的調査に取り組んでいる様子、間伐材の活用の様子などをご報告しました。参加された方からはやはりOECM（民間取組等と連携した自然環境保全）や30by30などについての話題があり、会としても取り組むべき内容ではないかと感じております。

最後になりましたが、以前ご紹介した、中学生たちが所属するGREEN TECH ENGINEER LABで新しい取り組みのために行っていたクラウドファンディング、「ShopBot で森をいかす！コロナ禍の中高生に力を貸してください」無事目標額を大きく超え達成することができました。ご支援いただいたみなさま本当にありがとうございました。ShopBotの導入で、本会の間伐材の利用も飛躍的に発展する見込みです。追って進捗状況をご報告いたします。

宮村　連理（本会、副理事長）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン